

# 市民力のステージとなる「シキテラス」ー市民が主役の、集まり、協働する場ー

志木らしきとは、市民の活動から生まれます。現在ある水や緑の豊かな環境の中に、市民が主役となる「シキテラス」をつくることで、ここにしかない活動が生まれます。



図1-市民力のステージとなる「シキテラス」

## 1 市民が交流し、親しむ庁舎

新庁舎を市民が主役となるように計画します。みんなが集まる広場「グランドテラス」はその中心となります。

### ■まち・川・緑と一体となる庁舎

- 庁舎はまちの景観、市民の生活に大きな影響力をもつ施設となります。コンパクトな市だからこそ、市民が主役となる新庁舎を提案します。
- 南側より広場（グランドテラス）、庁舎、駐車場が並ぶ明快な配置とします。親水公園に面したグランドテラスは、水や緑が連続する一体的な景観をつくります。
- グランドテラスはまちとフラットに接続し、市民が気軽に集まる場とします。
- 高低差を利用した歩車分離を行い、車利用者、歩行者どちらも安心して利用できる計画とします。

### ■どこから見ても、等しくたずむ庁舎の姿

- どこから見ても正面となる円弧状の庁舎とします。まちや親水公園に開き、市民を迎え入れる、吸い込まれる形状です。
- 舟運の高瀬舟や既存庁舎のイメージを取入れ、市の歴史を未来に継承します。



図2-舟運の高瀬舟



図3-円弧状の既存庁舎

### ■庁舎の全てが一目で分かる

- 広場からも、庁舎からも、一体感のあるしつらえとします。
- 活動がまちからも見えることで、市民が気軽に立ち寄りやすい、市民の居場所となります。

### ■広場と庁舎をつなぐ「ポケットテラス」

- 1Fのグランドテラスと地下は「ポケットテラス」でつながり、一体的なイベント開催も可能です。
- ポケットテラスを通して、グランドテラス下の駐車場にも光や風が届く、心地良い環境とします。
- 地下は雨に濡れずに利用できる屋根つき広場となります。

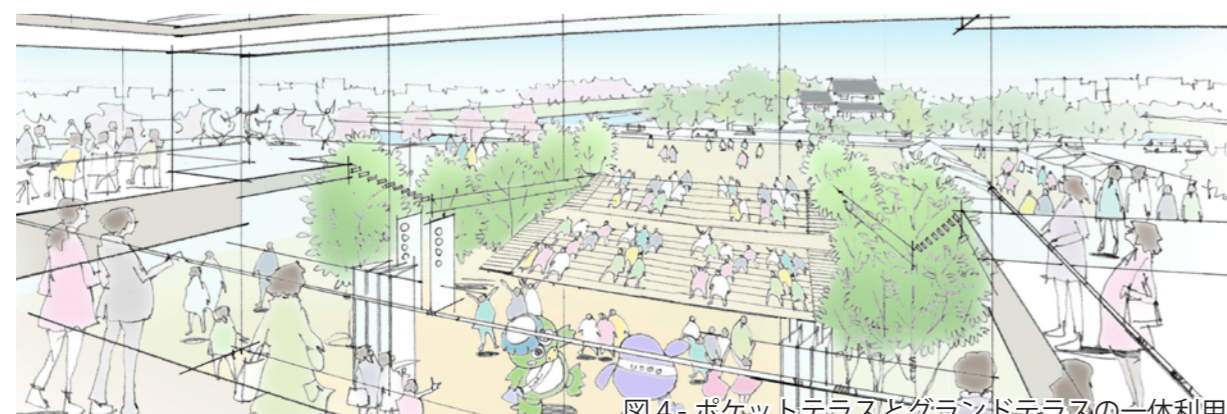


図4-ポケットテラスとグランドテラスの一体利用

## 2 夢と未来を語る、市民協働スペース

ラウンジや打合せスペースを南側に集約し、様々な市民協働を育む場となる、明るく開放的な空間をつくります。

### ■まちを見渡す「ステップテラス」

- 庁舎の周りには広場から段状に連続する「ステップテラス」を計画します。だれもが気軽に行き来でき、散策できる立体的な屋外広場です。
- グリーンスポットで自然とのふれあい、親水公園や市内を一望できる場などに活用できます。

### ■市民力を再発見する、開放的な市民協働の場

- 段状の明るい吹抜けをつくり、各階をヒューマンスケールの空間で連続的につなぎます。
- 市民協働の場となる、誰もが使える打合せスペースを、立体的に設置します。
- 上下階や屋外の活動が見通せるため、様々なコミュニケーションを促す空間となります。

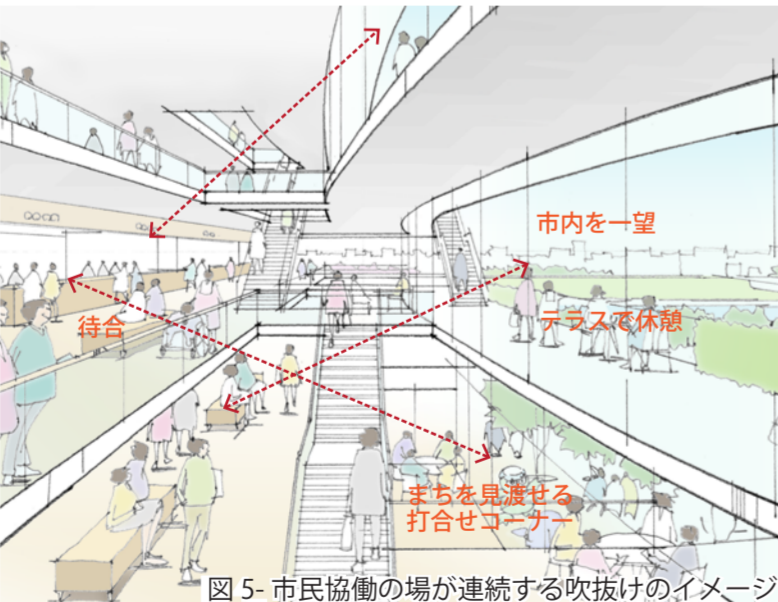


図5-市民協働の場が連続する吹抜けのイメージ

## 3 市民サービスを向上させる執務環境

市民に分かりやすい明快な構成と、個人情報を守られ業務効率が上がる執務室を計画します。

### ■執務室の上下階連携と議会の独立性を重視した階構成

- 来庁者の多い窓口は1,2Fに集約、災害時の司令塔となる執務室は3Fに配置します。独立性の高い議会は4Fとし、明快な階構成とします。
- 職員階段により上下の連携も容易で、業務効率を高めます。

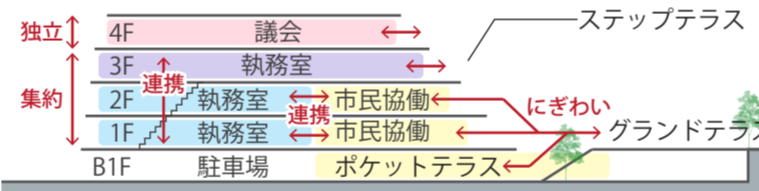


図6-階別ゾーニング(断面図)

### ■プライバシー保護と事務効率の向上

- 東西配置のコアにより、フロアの中央に大きくひとまとまりの執務室を確保します。
- オープンな執務室に収納を適切に配置し、視線を制御することで、着いて業務に集中できるようにします。容易にデスクの書類やパソコンを覗けないため、個人情報の保護にも配慮した計画です。
- 執務室の背後にサポートゾーン（書庫、倉庫、更衣、職員休憩室、上級室など）を集約します。各室に最短で移動でき、業務の効率性を最大限に高めます。
- 市民目線のプライバシー保護のため、窓口カウンターは衝立やブースなど、様々なニーズに応じた計画とします。

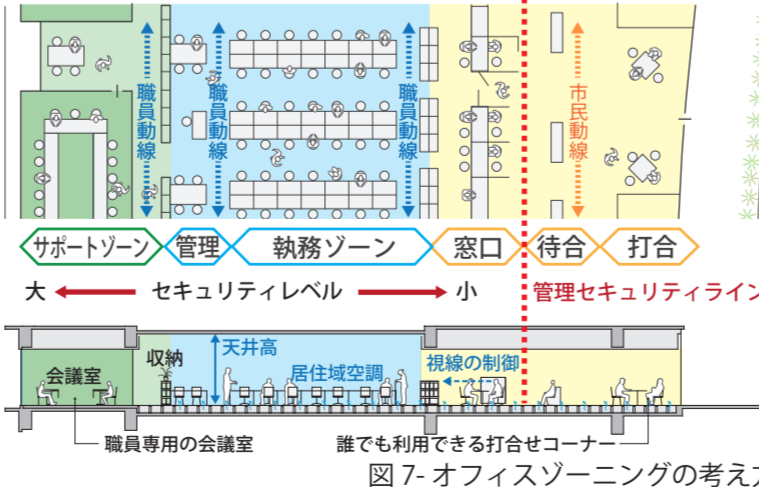


図7-オフィスゾーニングの考え方

### ■明確で確実なセキュリティライン

- 1Fの窓口前にセキュリティラインをつくります。
- 執務ゾーンと共用ゾーンを明快に区画でき、閉庁時や災害時にも、市民が共用ゾーンを利用できる計画とします。

## 4 地域にやさしい庁舎

敷地の周辺、特に北側住宅に配慮して計画を進めます。

### ■北側住環境への配慮

- 北側の住宅地に対し、「日照確保」「新庁舎の圧迫感の軽減」「見合や明かり漏れの防止」「雨水流出防止」「豊かな自然環境」の視点で配慮を行います。

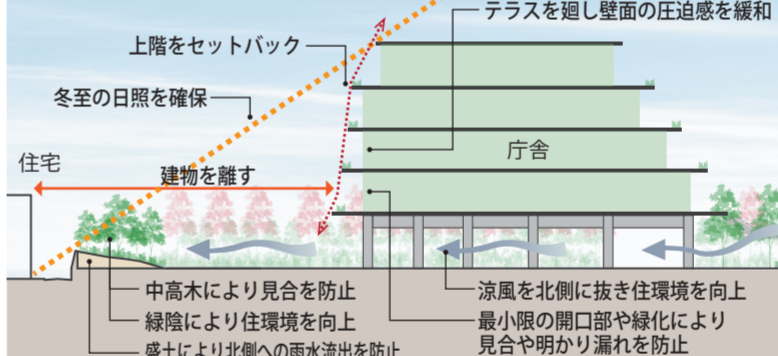


図8-北側住環境への配慮

### ■歩行者の安全性と快適性

- 新河岸川の散策路と広場を接続し、川沿いの景観を楽しめる環境をつくります。
- 車両出入口は、南側に比べ通行量の少ない西側に設けます。出入口は交差点から離し、右折レーンを拡充し、渋滞の緩和を図る計画とします。

図9-車両出入口の考え方

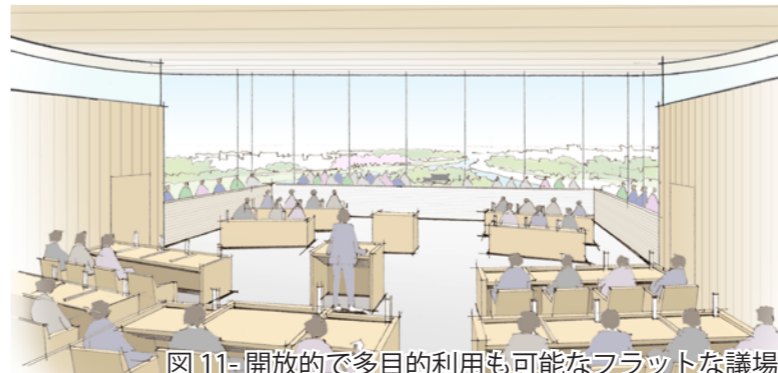
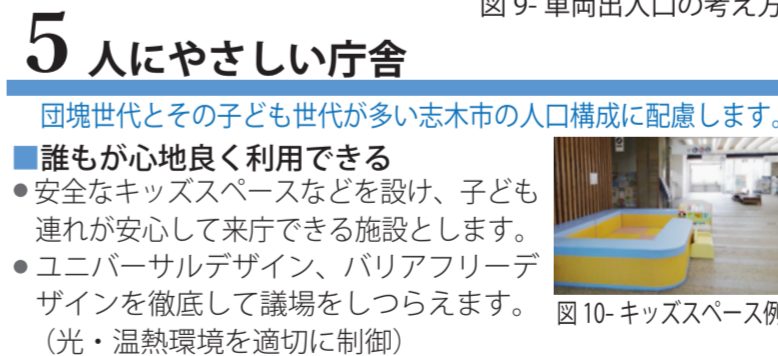


図11-開放的で多目的利用も可能なフラットな議場

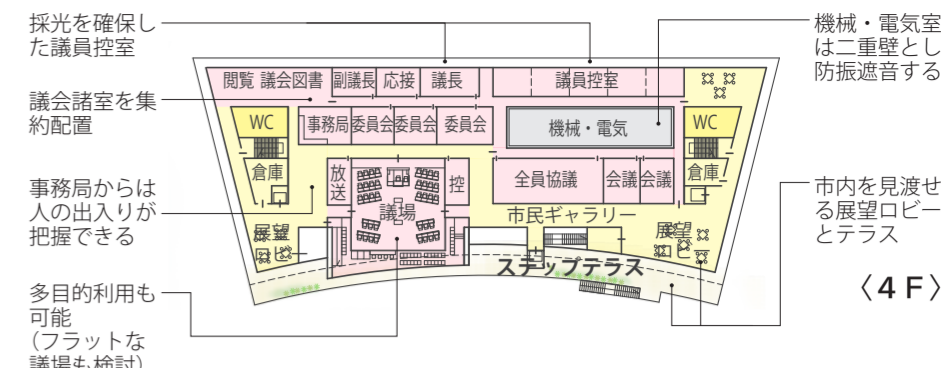
## 5 人にやさしい庁舎

団塊世代とその子ども世代が多い志木市の人口構成に配慮します。

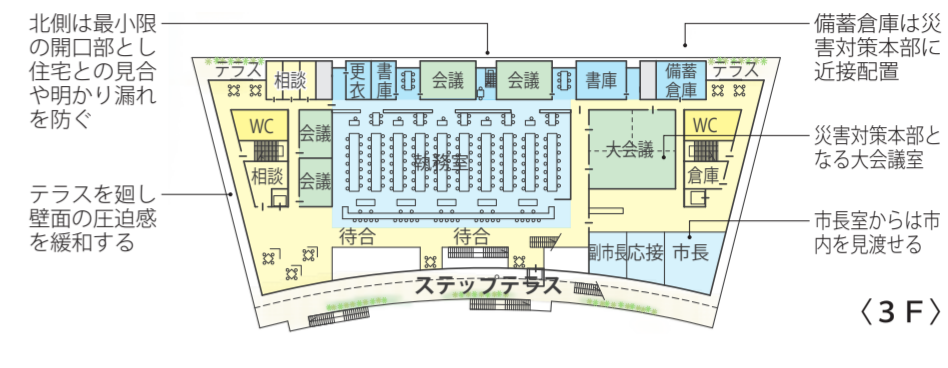
### ■誰もが心地良く利用できる

- 安全なキッズスペースなどを設け、子ども連れが安心して来庁できる施設とします。
- ユニバーサルデザイン、バリアフリーデザインを徹底して議場をしつらえます。

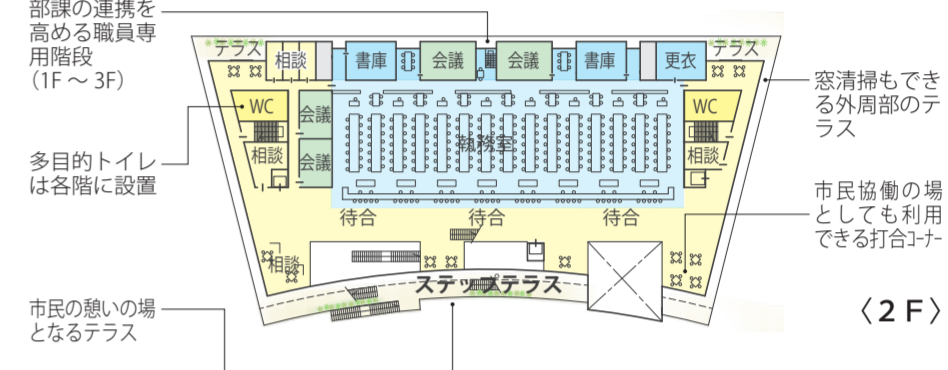
図10-キッズスペース例



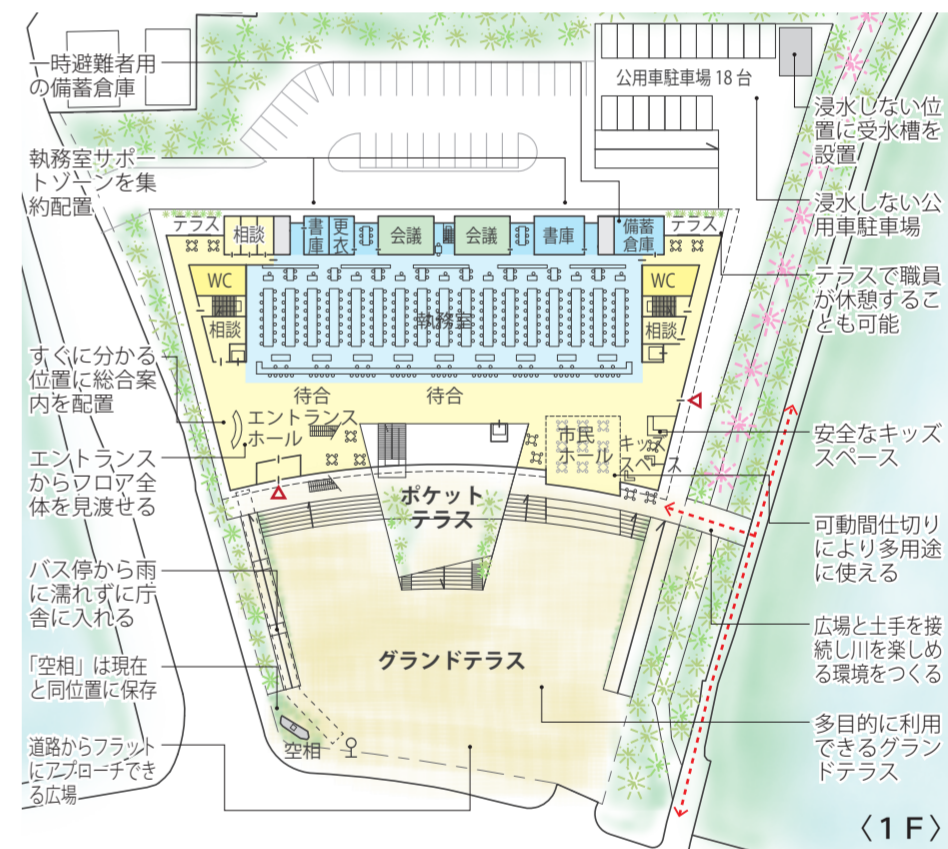
〈4F〉



〈3F〉



〈2F〉



〈1F〉



〈B1F〉